

# リリース・ノート Software Developer's Kit 15.5 Microsoft Windows 版

ドキュメント ID : DC00567-01-1550-01

改訂 : 2009 年 11 月 19 日

トピック名	ページ
1. 最新のリリース・ノート情報へのアクセス	2
2. 製品の概要	2
2.1 製品のコンポーネント	3
2.2 64 ビット・ライブラリの使用	3
2.3 ユーティリティ	3
2.4 IPv6 のサポート	3
2.5 サンプル・ファイル	3
3. 特別なインストールと設定の指示	4
3.1 EBF のインストール	4
3.2 SDK 15.0 の上に SDK 15.5 をインストールする	4
3.3 InstallAnywhere インストーラと InstallShield Multiplatform インストーラの実行	5
3.4 SDK の複数のバージョンを Windows 上で実行する	5
4. このバージョンで変更された機能	6
5. 既知の問題	6
5.1 SDK には Microsoft Visual C++ ライブラリのコンポーネントが必要	6
5.2 Adaptive Server Enterprise ODBC ドライバの問題	7
5.3 Adaptive Server OLE DB プロバイダの問題	8
5.4 Adaptive Server ADO.NET Data Provider の問題	9
5.5 インストーラの問題	10
6. 製品の互換性と相互運用性	12
6.1 相互運用性の一覧	12
6.2 SDK と Open Server の互換性	13
6.3 DB-Library と Client-Library の互換性	14
7. プログラミングの問題	14
7.1 一般的な問題	14
7.2 Client-Library の問題	15
7.3 Embedded SQL の問題	16
8. テクニカル・サポート	17

トピック名	ページ
9. その他の情報	17
9.1 Web 上の Sybase 製品の動作確認情報	18
9.2 Sybase EBF とソフトウェア・メンテナンス	19
10. アクセシビリティ機能	19

## 1. 最新のリリース・ノート情報へのアクセス

このリリース・ノートの最新バージョン ( 英語版 ) にはインターネットからアクセスできます。製品のリリース後に追加された製品およびマニュアルに関する重要な情報は、Sybase® Product Manuals Web サイトで確認してください。

### ❖ Sybase Product Manuals Web サイトのリリース・ノートにアクセスする

- 1 Product Manuals (<http://www.sybase.com/support/manuals/>) を開きます。
- 2 製品と言語を選択し、[Go] をクリックします。
- 3 [Document Set] リストから、製品のバージョンを選択します。
- 4 [Release Bulletins] リンクを選択します。
- 5 マニュアルのリストから、使用しているプラットフォームのリリース・ノートへのリンクを選択します。PDF バージョンをダウンロードすることも、オンラインでマニュアルを参照することもできます。

## 2. 製品の概要

この製品に含まれているのは Sybase Software Developer's Kit (SDK) バージョン 15.5 であり、以下で動作します。

- Microsoft Windows x86 32 ビット版
- Microsoft Windows x86-64 64 ビット版

サポートされるオペレーティング・システムの最新のリストについては、[Sybase platform certifications ページ \(http://certification.sybase.com/ucr/search.do\)](http://certification.sybase.com/ucr/search.do) を参照してください。SDK が構築およびテストされたプラットフォーム、コンパイラ、およびサードパーティ製品のリストについては、『新機能 Open Server および SDK Windows、Linux、UNIX、Mac OS X 版』を参照してください。

## 2.1 製品のコンポーネント

SDK のコンポーネントとこれらのコンポーネントがサポートされるプラットフォームのリストについては、『新機能 Open Server および SDK Microsoft Windows、Linux、UNIX、Mac OS X 版』を参照してください。

Sybase では、次のコンパイラとリンカを Open Client™ とともに使用できるかどうかをテストし、動作確認済みです。

- Microsoft C/C++ Optimizing Compiler 32-bit および 64-bit バージョン 14.00.50727.42 以降
- Microsoft Executable Linker 32-bit および 64-bit バージョン 8.00.50727.42 以降

## 2.2 64 ビット・ライブラリの使用

SDK バージョン 15.5 には 64 ビット版がありますが、次の注意事項があります。

- Embedded SQL™/COBOL は、Microsoft Windows x86-64 64 ビット版では使用できません。
- 64 ビット・ライブラリを使用するアプリケーションをコンパイルするときは、`-DSYB_LLP64` フラグを使用します。

## 2.3 ユーティリティ

`bcp`、`isql`、`defncopy`、`cobpre`、`cpres` が、Microsoft Windows で使用できます。

## 2.4 IPv6 のサポート

Sybase SDK バージョン 15.5 を Microsoft Windows プラットフォーム上で使用する場合は、IPv6 がサポートされます。

以下は、サンプルの `sql.ini` エントリです。

```
[BARNARD_OS]
master=tcp,barnards.sybase.com,18200
query=tcp,barnards.sybase.com,18200
master=tcp,fd77:55d:59d9:165:203:baff:fe68:aa12,18200
query=tcp,fd77:55d:59d9:165:203:baff:fe68:aa12,18200
```

## 2.5 サンプル・ファイル

サンプル・ファイルは、SDK のインストール・ディレクトリ `%SYBASE%\%SYBASE_OCS%\%sample` にあります。

## 3. 特別なインストールと設定の指示

ソフトウェアのインストール手順については、使用しているプラットフォームの『Software Developer's Kit and Open Server インストール・ガイド』を参照してください。SDK を他の Sybase 製品とともに同じサーバにインストールする場合のガイドラインについては、「[SDK を他の Sybase 製品と一緒にインストールするためのガイドライン](#)」(13 ページ)を参照してください。

---

**警告！** SDK と Open Server™ の両方を同じディレクトリにインストールする場合は、同じバージョン、同じ ESD レベルのものを使用することをおすすめします。SDK と Open Server はファイルを共有するため、バージョンや ESD レベルが異なると製品が動作しないことがあります。

---

環境の設定方法については、使用しているプラットフォームの『Open Client/Server 設定ガイド』を参照してください。

Open Client/Open Server アプリケーションとサンプル・プログラムのコンパイルと実行については、使用しているプラットフォームの『Open Client/Server プログラマーズ・ガイド補足』を参照してください。

### 3.1 EBF のインストール

インストール環境を最新の状態に保つために、SDK バージョン 15.5 をインストールした後で、対応する EBF の最新版をダウンロードしてインストールすることを強くおすすめします。製品更新版は、[Sybase Downloads \(http://downloads.sybase.com\)](http://downloads.sybase.com) からダウンロードできます。

適切なバージョンの SDK を使用しているかどうかを確認するには、次のコマンドを入力して SDK ライブラリのバージョン文字列を調べます。

```
isql.exe -v
```

サンプル SDK のバージョン文字列が、*Client-Library/15.5/P-EBF17930* である場合があります。このバージョン文字列では、17930 によって、Client-Library ファイルとその他の SDK ファイルが識別されます。

### 3.2 SDK 15.0 の上に SDK 15.5 をインストールする

SDK バージョン 15.5 は、バージョン 15.0 の置き換え用バージョンです。既存の SDK 15.0 ディレクトリに SDK 15.5 をインストールすると、バージョン 15.5 のファイルによって 15.0 のファイルが上書きされます。Sybase では、SDK 15.5 をインストールする前に、SDK 15.0 ディレクトリをバックアップすることをおすすめします。

### 3.3 InstallAnywhere インストーラと InstallShield Multiplatform インストーラの実行

InstallAnywhere および InstallShield Multiplatform によって生成された一部のファイルは、同じファイル名を共有します。このことは、InstallAnywhere と InstallShield の両方のテクノロジーを使用して、製品を同じインストール・ディレクトリにインストールする場合、またはそこからアンインストールする場合に問題になります。これは、両方のインストーラによって使用されるファイルが警告なしで上書きまたは削除されるためです。Sybase では、InstallShield および InstallAnywhere を使用して、同じインストール・ディレクトリにインストールしたり、またはそこからアンインストールしたりしないことをおすすめします。

### 3.4 SDK の複数のバージョンを Windows 上で実行する

異機種環境において使用されるアプリケーションがそれぞれ異なるバージョンの SDK に対してビルドされている場合は、[ コマンド プロンプト ] ウィンドウで各バージョンのパスを明示的に設定する必要があります。

次に示す例では、12.5.x の製品を使用するアプリケーションは *d:\ocsc-1251* ディレクトリにインストールされており、15.5 の製品を使用するアプリケーションは *d:\ocsc-150* ディレクトリにインストールされています。

- 1 SDK 12.5.x を使用するには、[ コマンド プロンプト ] ウィンドウを開き、SYBASE および SYBASE\_OCS 環境変数を 12.5.x ディレクトリに設定します。次に例を示します。

```
set SYBASE=D:\ocsc-1251
set SYBASE_OCS=OCS-12_5
```

- 2 同じ [ コマンド プロンプト ] ウィンドウで、PATH 環境変数を 12.5.x ディレクトリに設定します。

- Microsoft Windows x86 32 ビット版の場合

```
set PATH=%SYBASE%\%SYBASE_OCS%\bin;%SYBASE%\%SYBASE_OCS%\dll;%SYBASE%\%SYBASE_OCS%\lib3p;%PATH%
```

- Microsoft Windows x86-64 64 ビット版の場合

```
set PATH=%SYBASE%\%SYBASE_OCS%\bin;%SYBASE%\%SYBASE_OCS%\dll;%SYBASE%\%SYBASE_OCS%\lib3p64;%SYBASE%\%SYBASE_OCS%\lib3p;%PATH%
```

- 3 SDK 15.5 を使用するには、別の [ コマンド プロンプト ] ウィンドウを開き、SYBASE および SYBASE\_OCS 環境変数を 15.5 ディレクトリに設定します。次に例を示します。

```
set SYBASE=D:\ocsc-150
set SYBASE_OCS=OCS-15_0
```

- 4 同じ [ コマンドプロンプト ] ウィンドウで、PATH 環境変数を設定します。次に例を示します。

- Microsoft Windows x86 32 ビット版の場合

```
set PATH=%SYBASE%\%SYBASE_OCS%\bin;%SYBASE%\%SYBASE_OCS%\dll;  
%SYBASE%\%SYBASE_OCS%\lib3p;%PATH%
```

- Microsoft Windows x86-64 64 ビット版の場合

```
set PATH=%SYBASE%\%SYBASE_OCS%\bin;%SYBASE%\%SYBASE_OCS%\dll;  
%SYBASE%\%SYBASE_OCS%\lib3p64;%SYBASE%\%SYBASE_OCS%\lib3p;%PATH%
```

違うバージョンは別々のディレクトリにインストールする必要がありますが、アドレス・ファイル名を各アプリケーションに明示的に渡すことで、管理する *sql.ini* ファイルは 1 つだけですみます。次に例を示します。

```
isql -P -Usa -Sconnect50 -ID:%ocs-150%ini%sql.ini
```

## 4. このバージョンで変更された機能

Sybase SDK 15.5 の機能の変更点は、『Open Server および SDK 新機能 Microsoft Windows、Linux、UNIX、Mac OS X 版』に記載されています。

## 5. 既知の問題

この項では、このバージョンですでにわかっている問題をすべて説明します。

### 5.1 SDK には Microsoft Visual C++ ライブラリのコンポーネントが必要

[CR #555455] SDK には Microsoft Visual C++ ライブラリのコンポーネントが必要です。

対処方法：Microsoft Windows 上で SDK を使用するには、次のいずれかを実行します。

- Microsoft Visual C++ 2005 をインストールする。
- Microsoft Visual C++ 2005 再頒布可能パッケージをダウンロードしてインストールする。
  - package for Microsoft Windows x86 32-bit をダウンロードする。  
(<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?familyid=32BC1BEE-A3F9-4C13-9C99-220B62A191EE&displaylang=en>)
  - package for Microsoft Windows x86-64 64-bit をダウンロードする。  
(<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?FamilyID=90548130-4468-4BBC-9673-D6ACABD5D13B&displaylang=en>)

## 5.2 Adaptive Server Enterprise ODBC ドライバの問題

この項では、Adaptive Server® Enterprise ODBC ドライバの既知の問題と対処方法について説明します。

### 5.2.1 サポートされない ODBC の機能

Adaptive Server ODBC ドライバのバージョン 15.5 では、ネットワーク・トラフィックの Kerberos 暗号化はサポートされません。

### 5.2.2 Adaptive Server 12.0.x とともに使用する場合の制限

Adaptive Server ODBC ドライバを Adaptive Server バージョン 12.0.x とともに使用するとき、次に示す制限があります。

- **UseCursor** プロパティを 1 に設定したときに有効になるサーバ側カーソルは使用できません。これに対処するには、**UseCursor** を 0 に設定します。
- **DynamicPrepare** 接続プロパティを 1 に設定したときに有効になる準備文は使用できません。これに対処するには、**DynamicPrepare** を 0 に設定します。
- ストアド・プロシージャを呼び出すときに、出力パラメータや入出力パラメータは使用できません。
- **SQLProcedureColumns** メソッドで返されるカラム型情報が不完全です。
- **SQLColAttribute** 関数でサポートされる記述子型が限定されます。

対処方法：最新バージョンの Adaptive Server へアップグレードします。

### 5.2.3 *datetime* パラメータが範囲外の場合の動作の変化

Adaptive Server ODBC ドライバ 15.0 以前を使用しているか、または Adaptive Server バージョン 15.0.x 以前に接続していて、アプリケーションが *datetime* パラメータを 01-01-0001 などの無効な *datetime* の範囲にバインドしている場合、Adaptive Server ODBC ドライバによってエラー 30122 ( 無効な *datetime* フィールドです。year が範囲外です ) が返されます。

Adaptive Server 15.5 に接続されている Adaptive Server ODBC ドライバ 15.5 については、この動作が変わりました。15.5 バージョンでは、Adaptive Server ODBC ドライバが日付を Adaptive Server に送信し、Adaptive Server からエラーが返されます。返されるエラー・コードは 247 で、次のようなメッセージが示されます。  
Arithmetic overflow during implicit conversion of  
BIGDATETIME value 'Jan 1 0001 12:00AM' to a DATETIME field

## 5.3 Adaptive Server OLE DB プロバイダの問題

この項では、Adaptive Server OLE DB プロバイダの既知の問題と対処方法について説明します。

### 5.3.1 サポートされない OLE DB の機能

Adaptive Server OLE DB プロバイダ 15.5 では、以下はサポートされません。

- OLE DB エラー・オブジェクト (ISupportErrorInfo) の返送
- DBPROP\_INIT\_PROMPT プロパティ (不足している接続情報の入力をユーザに要求しない)
- IPersist オブジェクトによるデータ・ソースの読み取りと書き込み、およびストレージ・オブジェクトに対するコマンド
- ネットワーク・トラフィックの Kerberos 暗号化

### 5.3.2 Adaptive Server 12.0.x とともに使用する場合の制限

Adaptive Server OLE DB プロバイダを Adaptive Server バージョン 12.0.x とともに使用する場合の制限は次のとおりです。

- UseCursor プロパティを 1 に設定したときに有効になるサーバ側カーソルは使用できません。これに対処するには、UseCursor を 0 に設定します。
- DynamicPrepare 接続プロパティを 1 に設定したときに有効になる準備文は使用できません。これに対処するには、DynamicPrepare を 0 に設定します。
- ストアド・プロシージャを呼び出すときに、出力パラメータや入出力パラメータは使用できません。
- IDBSchemaRowset::GetRowset で取得されるスキーマ・ロー・セットのスキーマ情報のうち、利用できるのは一部のみです。

対処方法：最新バージョンの Adaptive Server へアップグレードします。

### 5.3.3 datetime パラメータが範囲外の場合の動作の変化

以前は、Adaptive Server OLE DB プロバイダ 15.0 以前を使用しているか、または Adaptive Server バージョン 15.0.x 以前に接続していて、アプリケーションが datetime パラメータを 01-01-0001 などの無効な datetime の範囲にバインドしている場合、Adaptive Server OLE DB プロバイダによってエラー 30122 (無効な datetime フィールドです。year が範囲外です) が返されます。



Adaptive Server 15.5 に接続されている Adaptive Server OLE DB プロバイダ 15.5 については、この動作が変わりました。15.5 バージョンでは、Adaptive Server OLE DB プロバイダが日付を Adaptive Server に送信し、Adaptive Server からエラーが返されます。返されるエラー・コードは 247 で、次のようなメッセージが示されます。Arithmetic overflow during implicit conversion of BIGDATETIME value 'Jan 1 0001 12:00AM' to a DATETIME field

## 5.4 Adaptive Server ADO.NET Data Provider の問題

この項では、Adaptive Server ADO.NET Data Provider バージョン 1.155 および 2.155 の既知の問題と対処方法について説明します。

### 5.4.1 Sybase.AdoNet2.AseClient.dll を参照するアプリケーションを再コンパイルする必要がある

**[CR #596504]** アプリケーションが *Sybase.AdoNet2.AseClient.dll* に対する参照を使用して構築されている場合、提供されているポリシーを使用して Adaptive Server ADO.NET Data Provider 2.155 にアップグレードするだけでは十分ではありません。

対処方法：*Sybase.AdoNet2.AseClient.dll* に対する参照を使用して構築されているアプリケーションを再コンパイルします。アプリケーションで ADO.NET 2.0 Provider Factory が使用されている場合、再コンパイルは必要ありません。

### 5.4.2 Adaptive Server 12.0.x とともに使用する場合の制限

Adaptive Server ADO.NET Data Provider を Adaptive Server バージョン 12.0.x とともに使用するときは、次に示す制限があります。

- **UseCursor** プロパティを true に設定したときに有効になるサーバ側カーソルは使用できません。対処方法：**UseCursor** を false に設定します。
- **AseCommand** クラスの **prepare** メソッドを呼び出したときに有効になる準備文は使用できません。対処方法：**AseCommand** クラスで **prepare** メソッドを呼び出さないようにします。
- ストアド・プロシージャを呼び出すときに、出力パラメータや入出力パラメータは使用できません。
- **GetSchemaTable** で返される結果セットのカラム・データが不完全です。
- **AseCommandBuilder** クラスは使用できません。

対処方法：最新バージョンの Adaptive Server へアップグレードします。

### 5.4.3 decimal データ型と numeric データ型の精度の制限

現時点では、Adaptive Server ADO.NET Data Provider でサポートされる decimal 型の精度は最大 26 桁です。基本となる .NET の構造体とそれに対応する Adaptive Server のデータ型では、さらに高い精度を扱うことができますが、26 を上回る精度を使用しようとするとは例外が発生します。この制限が影響する Adaptive Server のデータ型は、decimal と numeric です。

### 5.4.4 datetime パラメータが範囲外の場合の動作の変化

以前は、Adaptive Server ADO.NET Data Provider 1.15 以前を使用しているか、または Adaptive Server バージョン 15.0.x 以前に接続していて、アプリケーションが datetime パラメータを 01-01-0001 などの無効な datetime の範囲にバインドしている場合、Adaptive Server ADO.NET Data Provider によってエラー 30122 (無効な datetime フィールドです。year が範囲外です) が返されます。

Adaptive Server 15.5 に接続されている Adaptive Server ADO.NET Data Provider 2.155 については、この動作が変わりました。この場合は、Adaptive Server ADO.NET Data Provider が日付を Adaptive Server に送信し、Adaptive Server からエラーが返されます。返されるエラー・コードは 247 で、次のようなメッセージが示されます。Arithmetic overflow during implicit conversion of BIGDATETIME value 'Jan 1 0001 12:00AM' to a DATETIME field

## 5.5 インストーラの問題

この項では、SDK のインストール時に発生する可能性のある既知の問題について説明します。

### 5.5.1 Microsoft Windows 2008 でインストーラがインストーラ・ディレクトリを作成できない

**[CR #595614]** Microsoft Windows 2008 で、インストーラが SDK インストール・ディレクトリを作成できるのは、管理者としてログインしている場合のみです。これは、ユーザの役割にディレクトリを作成するパーミッションが付与されている場合でも同様です。

対処方法：インストーラを実行する前に、インストール・ディレクトリを作成してください。

### 5.5.2 アンインストール・プロセスが応答しない

**[CR #595573]** [ユーザ・ファイルの削除]画面で[削除]を選択してから、[アンインストール完了]画面で[戻る]をクリックすると、アンインストール・プログラムが応答しなくなります。[ユーザ・ファイルの削除]と[アンインストール完了]は、アンインストール・プログラムで表示される最後の2つの画面です。

対処方法：[削除]を選択した後に、[ユーザ・ファイルの削除]画面に戻らないでください。

### 5.5.3 Microsoft Windows Vista および Windows 2008 x86-64 64 ビット版でインストーラが失敗する

**[CR #593389]** Microsoft Windows Vista および Windows 2008 x86-64 64 ビット版でインストーラが失敗するのは、インストーラが環境変数を設定できないためです。

対処方法：Windows エクスプローラで、`setup.exe` または `setupConsole.exe` を右クリックし、[プロパティ]をクリックします。[互換性]タブで、Windows Vista 互換モードを選択します。

### 5.5.4 キーボードで [製品機能を選択します] ウィンドウを操作できない

**[CR #590282]** [Tab] キーおよび矢印キーを使用して、インストールまたはアンインストール・プログラムの [製品機能を選択します] ウィンドウを操作することはできません。

対処方法：マウスを使用して、[製品機能を選択します] ウィンドウをクリックします。そうすることで、ウィンドウにフォーカスが移され、キーボードを使用できるようになります。

### 5.5.5 コンソール・モードで西欧言語の文字セットが正しく表示されない

**[CR #588179]** コンソール・モードでインストールするときに、一部の西欧言語文字が正しく表示されません。

対処方法：SDK をインストールする前に、次の操作を実行します。

- 1 [コマンドプロンプト]ウィンドウを開きます。
- 2 `chcp 1252` を実行して、コード・ページを 1252 に変更します。
- 3 [コマンドプロンプト]ウィンドウのタイトルを右クリックし、[プロパティ]を選択します。[フォント]タブで、[Lucida Console]を選択し、[OK]をクリックします。
- 4 同じ[コマンドプロンプト]ウィンドウを使用して、インストーラをコンソール・モードで実行します。

### 5.5.6 サイレント・モードでインストールするときに機能名が検証されない

[CR #583979] サイレント・モードでインストールするときに、インストーラが、応答ファイルで指定されている機能名を検証しません。

対処方法：指定されている機能名が正しいことを確認します。

## 6. 製品の互換性と相互運用性

この項では、SDK 15.5 と互換性のある製品について説明します。SDK が構築およびテストされたプラットフォーム、コンパイラ、およびサードパーティ製品のリストについては、『新機能 Open Server および SDK Windows、Linux、UNIX、Mac OS X 版』を参照してください。

### 6.1 相互運用性の一覧

表 1 は、同じマシンにインストールされた SDK、Open Server、Adaptive Server、Replication Server® の相互運用性の一覧を示します。特定のプラットフォームの情報については、各製品の Certification Report を参照してください。

複数の製品が相互運用可能であっても、ある製品の新しいバージョンで導入された新機能が、同じ製品や他の製品の古いバージョンではサポートされないことがあります。

表 1: 相互運用性の一覧

SDK 15.5	Open Server			Adaptive Server			Replication Server				
	15.5	15.0	12.5.1	15.5	15.0.x	12.5.x	15.5	15.2	15.1	15.0.1	12.6
Apple Mac OS X Intel	該当 なし	該当 なし	該当 なし	該当 なし	該当 なし	x	該当 なし	該当 なし	該当 なし	該当 なし	x
HP HP-UX PA-RISC 32 ビット版	x	x	x	該当 なし	該当 なし	x	該当 なし	該当 なし	x	x	x
HP HP-UX PA-RISC 64 ビット版	x	x	x	x	x	x	該当 なし	該当 なし	該当 なし	該当 なし	該当 なし
HP HP-UX Itanium 32 ビット版	x	x	x	該当 なし	該当 なし	該当 なし	該当 なし	該当 なし	該当 なし	x	x
HP HP-UX Itanium 64 ビット版	x	x	x	x	x	x	x	x	x	該当 なし	該当 なし
IBM AIX POWER 32 ビット版	x	x	x	該当 なし	該当 なし	x	該当 なし	x	x	x	x
IBM AIX POWER 64 ビット版	x	x	x	x	x	x	x	該当 なし	該当 なし	該当 なし	該当 なし
Linux x86 32 ビット版	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
Linux x86-64 64 ビット版	x	x	x	x	x	x	x	該当 なし	該当 なし	該当 なし	該当 なし
Linux POWER 32 ビット版	x	x	x	該当 なし	該当 なし	該当 なし	該当 なし	該当 なし	該当 なし	該当 なし	該当 なし

SDK 15.5	Open Server			Adaptive Server			Replication Server				
	15.5	15.0	12.5.1	15.5	15.0.x	12.5.x	15.5	15.2	15.1	15.0.1	12.6
Linux POWER 64 ビット版	x	x	x	x	x	x	x	x	x	該当 なし	該当 なし
Sun Solaris SPARC 32 ビット版	x	x	x	x	x	x	該当 なし	x	x	x	x
Sun Solaris SPARC 64 ビット版	x	x	x	x	x	x	x	該当 なし	該当 なし	該当 なし	該当 なし
Sun Solaris x86-64 32 ビット版	x	x	x	該当 なし	該当 なし	x	該当 なし	x	x	該当 なし	x
Sun Solaris x86-64 64 ビット版	x	x	x	x	x	x	x	該当 なし	該当 なし	該当 なし	該当 なし
Microsoft Windows x86 32 ビット版	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
Microsoft Windows x86-64 64 ビット版	x	x	x	x	x	該当 なし	x	該当 なし	該当 なし	該当 なし	該当 なし

記号の説明：x = 相互運用性あり、該当なし = そのプラットフォーム版で製品が使用できない、または SDK と連動しない。

**注意** 表 1 に示した SDK の相互運用性情報は、相互運用性のある製品をそれぞれ別の %SYBASE% ディレクトリにインストールすることを前提とします。詳細については、「[SDK の複数のバージョンを Windows 上で実行する](#)」(5 ページ) を参照してください。

### 6.1.1 SDK を他の Sybase 製品と一緒にインストールするためのガイドライン

SDK を他の Sybase 製品と一緒に同じマシンにインストールする場合は、次のガイドラインに従ってください。

- Microsoft Windows では、SDK 15.5 を Adaptive Server 15.0.x と同じマシンにインストールすると、Adaptive Server が起動しなくなります。この組み合わせを設定するには、Adaptive Server を 15.5 にアップグレードするか、『Software Developers Kit/Open Server インストール・ガイド Microsoft Windows 版』の指示に従ってください。
- Microsoft Windows では、.bat ファイルを使用して、各製品の起動時に適切なバージョンの SDK と適切な環境変数を使用されるようにします。

## 6.2 SDK と Open Server の互換性

SDK と Open Server の互換性を確保するには、アプリケーションにインクルードされるヘッダ・ファイルのバージョン・レベルと、アプリケーションがリンクしているライブラリのバージョン・レベルが同じであることが必要です。

## 6.3 DB-Library と Client-Library の互換性

DB-Library™ の互換性に関する問題を次に示します。

- Open Client や Adaptive Server における新機能のサポートは、主に Client-Library API に反映されています。これには、LDAP、SSL、高可用性フェールオーバー、DOL テーブルへのバルク・コピーなどのサポートが含まれます。このため、新しいアプリケーションはすべて Client-Library API を使用して作成することを強くおすすめします。新しいテクノロジーを提供する Adaptive Server サーバに対して実行する可能性がある場合は、DB-Library で作成した古いアプリケーションを Client-Library にマイグレートすることもおすすめします。
- 新機能のサポートは、この DB-Library には追加されません。
- DB-Library と Client-Library の呼び出しを同じアプリケーションに含めることは可能ですが、Sybase ではこの 2 つの異なる API の組み合わせについてはテストと確認を行っていません。2 つの API を一緒に使用する必要がある場合は、ライブラリのメジャー・リリース・レベルだけでなく ESD レベルも揃えてください。

DB-Library アプリケーションを Client-Library アプリケーションに変換する方法については、『Open Client Client-Library 移行ガイド』を参照してください。

## 7. プログラミングの問題

この項では、Open Client と Embedded SQL に関連するプログラミングの問題について説明します。

### 7.1 一般的な問題

この項では、Open Client 製品すべてに関連するプログラミングの問題について説明します。

#### 7.1.1 新しいバージョンへのアップグレード

動的にリンクしている Open Client アプリケーション (dblib、ctlib、esql) では、ライブラリ名に “syb” が追加された SDK ライブラリを使用して再コンパイルと再リンクを実行してください。

---

**注意** アプリケーション・ファイルを変更した場合は、再コンパイルする必要があります。

---

アプリケーションの構築に使用するバージョンと同じメジャー・リリースのランタイム・ライブラリを使用してください。

### 7.1.2 システム・パスの制限

作成するシステム・パスのサイズが 1K を超えないようにしてください。

## 7.2 Client-Library の問題

この項では、Client-Library のプログラミングの問題について説明します。

### 7.2.1 非同期オペレーション

Client-Library を正常に終了するには、すべての非同期オペレーションが完了した後には `ct_exit` を呼び出します。非同期オペレーション実行中に `ct_exit` が呼び出されると、ルーチンは `CS_FAIL` を返し、`CS_FORCE_EXIT` を使用しても Client-Library は正常に終了しません。

Client-Library は、Windows 2000 での非同期オペレーションを完全にサポートしています。詳細については、『Open Client Client-Library/C リファレンス・マニュアル』の「非同期プログラミング」を参照してください。

### 7.2.2 レジスタード・プロシージャ・ノーティフィケーション

`CS_ASYNC_NOTIFS` 接続プロパティは、Client-Library アプリケーションが Open Server アプリケーションからレジスタード・プロシージャ・ノーティフィケーションを受け取る方法を制御します。

現在、Open Server アプリケーションは、ノーティフィケーション（通知）を 1 つまたは複数の Tabular Data Stream™ (TDS) パケットとしてクライアントに送信します。ただし、Client-Library が接続からノーティフィケーション・パケットを読み、アプリケーションのノーティフィケーション・コールバックを起動すると、クライアント・アプリケーションにノーティフィケーションが通知されます。

`ct_poll` が接続上のアイドル状態のアプリケーションのノーティフィケーション・コールバックをトリガするように、`CS_ASYNC_NOTIFS` を `CS_TRUE` に設定してください。これは、アプリケーションがコマンドを積極的に送信して接続上の結果を読み込まないかぎり、アプリケーションは `CS_ASYNC_NOTIFS` が `CS_FALSE` (デフォルト) のときにノーティフィケーションを受け取れないということです。

## 7.3 Embedded SQL の問題

この項では、次の製品に固有のプログラミングの問題について説明します。

- Embedded SQL/C バージョン 15.0 以降
- Embedded SQL/COBOL バージョン 15.0 以降

Embedded SQL/C および Embedded SQL/COBOL を使用できるプラットフォームのリストについては、『新機能 Open Server および SDK Windows、Linux、UNIX、Mac OS X 版』を参照してください。

### 7.3.1 Embedded SQL/C オブジェクトを複数のスレッド間で共有する

デフォルトでは、Embedded SQL/C 接続、カーソル、動的文は、複数のスレッドで共有できません。このタイプの各オブジェクトに対するネーム・スペースは、現在実行中のスレッドに限られます。別のスレッドが作成したオブジェクトを他のスレッドが参照することはできません。オブジェクトを共有するには、*sybcsql.c* モジュールをコンパイルするときに `-D` コンパイラ・オプションを使用して、マクロ `CONNECTIONS_ARE_SHARED_ACROSS_THREADS` を 1 に設定します。

---

**警告！** Embedded SQL/C オブジェクトが複数のスレッドで共有されている場合、アプリケーションのプログラミングでスレッドの処理を直列化し、単一の接続に関連付けられたオブジェクトが複数のスレッドによって同時に使用されないようにする必要があります。

---

一般に、動的記述子は複数のスレッドで共有することが可能です。各スレッドに動的記述子用のネーム・スペースを割り当てるには、*sybcsql.c* モジュールをコンパイルするときに、`-D` コンパイラ・オプションを使用してマクロ `DESCRIPTOR_SCOPE_IS_THREAD` を 1 に設定します。

### 7.3.2 プリコンパイラ `-p` オプション

ホスト文字列変数が空のときに NULL 文字列の代わりに空の文字列が挿入されないと動作しないアプリケーションは、`-p` オプションがオンになっていると正しく機能しません。継続バインドを実装しているため、Embedded SQL は Client-Library プロトコル (NULL 文字列を挿入する) を回避することができません。



### 7.3.3 エラーまたは警告が発生すると *select into* 文を実行できなくなる

出力ホスト変数として配列を使うと、1つの *select into* 文で複数のローを取得することができます。エラーや警告が発生しない場合、選択されたすべてのローは配列の長さの上限に達した時点で返されます。トランケーション、変換の警告、エラーが発生した場合は、エラーや警告の発生したローまでしか返されません。すべてのローを受け取るようにするには、カーソルを使用して残りのローがなくなるまでフェッチを続けます。

### 7.3.4 Embedded SQL/C サンプル・プログラム

入力されたパスワードが正しくない場合に、サンプル・プログラム *example1.pc* と *example2.pc* が生成するエラー番号に誤りがあります。これらの番号は無視してもかまいません。

### 7.3.5 Embedded SQL/COBOL サンプル・プログラム

サンプル・プログラムをコンパイルするための共有ライブラリ・パスには、*%COBDIR%#lib* と *%SYBASE%#%SYBASE\_OCS%#lib* を含めてください。このパスには、*%COBDIR%#bin* と *%SYBASE%#bin* も含まれている必要があります。

## 8. テクニカル・サポート

Sybase ソフトウェアがインストールされているサイトには、Sybase 製品の保守契約を結んでいるサポート・センタとの連絡担当の方 (コンタクト・パーソン) を決めてあります。マニュアルだけでは解決できない問題があった場合には、担当の方を通して Sybase 製品のサポート・センタまでご連絡ください。

## 9. その他の情報

Sybase Getting Started CD、SyBooks™ CD、Sybase Product Manuals Web サイトを利用すると、製品について詳しく知ることができます。

- Getting Started CD には、PDF 形式のリリース・ノートとインストール・ガイド、SyBooks CD に含まれていない他のマニュアルや更新情報が収録されています。この CD は製品のソフトウェアに同梱されています。Getting Started CD に収録されているマニュアルを参照または印刷するには、Adobe Acrobat Reader が必要です (CD 内のリンクを使用して Adobe の Web サイトから無料でダウンロードできます)。
- SyBooks CD には製品マニュアルが収録されています。この CD は製品のソフトウェアに同梱されています。Eclipse ベースの SyBooks ブラウザを使用すれば、使いやすい HTML 形式のマニュアルにアクセスできます。

一部のマニュアルは PDF 形式で提供されています。これらのマニュアルは SyBooks CD の PDF ディレクトリに収録されています。PDF ファイルを開いたり印刷したりするには、Adobe Acrobat Reader が必要です。

SyBooks をインストールして起動するまでの手順については、Getting Started CD の『SyBooks インストール・ガイド』、または SyBooks CD の *README.txt* ファイルを参照してください。

- Sybase Product Manuals Web サイトは、SyBooks CD のオンライン版であり、標準の Web ブラウザを使ってアクセスできます。また、製品マニュアルのほか、EBFs/Updates、Technical Documents、Case Management、Solved Cases、ニュース・グループ、Sybase Developer Network へのリンクもあります。

Sybase Product Manuals Web サイトは、Product Manuals にあります。  
(<http://www.sybase.com/support/manuals/>)

## 9.1 Web 上の Sybase 製品の動作確認情報

Sybase Web サイトの技術的な資料は頻繁に更新されます。

### ❖ 製品認定の最新情報にアクセスする

- 1 Web ブラウザで Technical Documents を指定します。  
(<http://www.sybase.com/support/techdocs/>)
- 2 [Partner Certification Report] をクリックします。
- 3 [Partner Certification Report] フィルタで製品、プラットフォーム、時間枠を指定して [Go] をクリックします。
- 4 [Partner Certification Report] のタイトルをクリックして、レポートを表示します。

### ❖ コンポーネント認定の最新情報にアクセスする

- 1 Web ブラウザで Availability and Certification Reports を指定します。  
(<http://certification.sybase.com/>)
- 2 [Search By Base Product] で製品ファミリーとベース製品を選択するか、[Search by Platform] でプラットフォームとベース製品を選択します。
- 3 [Search] をクリックして、入手状況と認定レポートを表示します。

### ❖ Sybase Web サイト ( サポート・ページを含む ) の自分専用のビューを作成する

MySybase プロファイルを設定します。MySybase は無料サービスです。このサービスを使用すると、Sybase Web ページの表示方法を自分専用カスタマイズできます。

- 1 Web ブラウザで Technical Documents を指定します。  
(<http://www.sybase.com/support/techdocs/>)
- 2 [MySybase] をクリックし、MySybase プロファイルを作成します。

## 9.2 Sybase EBF とソフトウェア・メンテナンス

### ❖ EBF とソフトウェア・メンテナンスの最新情報にアクセスする

- 1 Web ブラウザで Sybase Support ページを指定します。  
(<http://www.sybase.com/support>)
- 2 [EBFs/Maintenance] を選択します。MySybase のユーザ名とパスワードを入力します。
- 3 製品を選択します。
- 4 時間枠を指定して [Go] をクリックします。EBF/Maintenance リリースの一覧が表示されます。  
  
鍵のアイコンは、「Technical Support Contact」として登録されていないため、一部の EBF/Maintenance リリースをダウンロードする権限がないことを示しています。未登録でも、Sybase 担当者またはサポート・コンタクトから有効な情報を得ている場合は、[Edit Roles] をクリックして、「Technical Support Contact」の役割を MySybase プロファイルに追加します。
- 5 EBF/Maintenance レポートを表示するには [Info] アイコンをクリックします。ソフトウェアをダウンロードするには製品の説明をクリックします。

## 10. アクセシビリティ機能

このマニュアルには、アクセシビリティを重視した HTML 版もあります。この HTML 版マニュアルは、スクリーン・リーダーで読み上げる、または画面を拡大表示するなどの方法により、その内容を理解できるよう配慮されています。

SDK マニュアルは、連邦リハビリテーション法第 508 条のアクセシビリティ規定に準拠していることがテストにより確認されています。第 508 条に準拠しているマニュアルは通常、World Wide Web Consortium (W3C) の Web サイト用ガイドラインなど、米国以外のアクセシビリティ・ガイドラインにも準拠しています。

---

**注意** アクセシビリティ・ツールを効率的に使用するには、設定が必要な場合もあります。一部のスクリーン・リーダーは、テキストの大文字と小文字を区別して発音します。たとえば、すべて大文字のテキスト (ALL UPPERCASE TEXT など) はイニシャルで発音し、大文字と小文字の混在したテキスト (Mixed Case Text など) は単語として発音します。構文規則を発音するようにツールを設定すると便利かもしれません。詳細については、ツールのマニュアルを参照してください。

---

Sybase のアクセシビリティに対する取り組みについては、[Sybase Accessibility \(http://www.sybase.com/accessibility\)](http://www.sybase.com/accessibility) を参照してください。Sybase Accessibility サイトには、第 508 条と W3C 標準に関する情報へのリンクもあります。

